

4.2.4 コンセプト実現に向けた課題及び活性化方策

堺浜におけるコンセプト実現に向けた課題、活性化方策及び施策メニューは以下のとおりです。

表 コンセプト実現に向けた課題、活性化方策及び施策メニュー

課題	活性化方策	施策メニュー
①自然環境の再生・創出 ②地球環境問題対応への期待 ③大阪湾再生のモデル地区としての情報発信、実験・研究機能の強化 ④静穏な北市街を活かした市民・来訪者が海と触れ合える場の創出 ⑤ウォーカーフロントの賑わいづくり ⑥レクリエーション拠点としての景観向上 ⑦市街地からのアクセス確保	<p>① 課題が存在することにより、水質が低下している可能性がある。環境基準を上回っている箇所もあり、生物の生息環境に相応しない条件下にある。市民のニーズからはヘドトコノ遊歩等による水質改善を望む声も上がっている。水質改善の取組のひとつとして、北市街において生物共生型遊歩の実験が行われている。</p> <p>② 海浜を利用した地球環境問題への対応が要請されている。堺浜では生物共生型遊歩の整備、大和川河口部の汽水域を活用した生物生息空間の保全、向上等、生物多様性保持への取組が行われている。市民ニーズからは環境改善・保全活動に対する期待の声が上がっている。</p> <p>③ 国・大学・NPO等が環境再生の研究・実験・継続的な海域調査を実施している。</p> <p>④ 大部分は直立護岸で、海と触れ合える場がなく、親水性に乏しい。先導地は広く市民に利用されている。親水市民のニーズからは、水質改善を行い、親水性を高めることが重要、市民の悪いの場の前出を求めているという声が上がっている。</p> <p>⑤ 商業アミューズメント施設、J-GREEN等が整備されている。市民ニーズからは、スポーツ施設等の整備推進などを含む未利用地の有効活用、未利用地での巨大イベントの実施等により活性化を望む声が上がっている。アクセシビリティが低い。市民のニーズからは、臨海部は中心部から離れているため、アクセス性の向上を望む声が上がっている。</p> <p>⑥ 大規模な商業施設やスポーツ施設等が整備されており、レクリエーション拠点としての機能は期待されている。ゴミの漂着により景観が損なわれている地区や未整備の地区がある。臨海部の環境・景観を改善することや、親しみが持てる場所を創出することを望む声が上がっている。</p> <p>⑦ 公共交通網によるアクセスはバスへの利用に限られており、堺浜へのアクセス手段の確保の需要は存在している。市民のニーズからは、臨海部は中心部から離れているため、アクセス性の向上を望む声が上がっている。</p>	<p>① 水質、底質の改善による大阪湾の再生への貢献 ② 親水レクリエーション空間の形成 ③ 市民活動・交流空間の形成 ④ 景観の向上 ⑤ 未利用地の健康・賑わい、研究機能への活用 ⑥ スポーツ観光への活用 ⑦ アクセシビリティの向上</p>
<p>① 水質、底質の改善による大阪湾の再生への貢献</p> <p>② 親水レクリエーション空間の形成</p> <p>③ 市民活動・交流空間の形成</p> <p>④ 景観の向上</p> <p>⑤ 未利用地の健康・賑わい、研究機能への活用</p> <p>⑥ スポーツ観光への活用</p> <p>⑦ アクセシビリティの向上</p>	<p>① 水質、底質の改善による大阪湾の再生への貢献</p> <p>② 親水レクリエーション空間の形成</p> <p>③ 市民活動・交流空間の形成</p> <p>④ 景観の向上</p> <p>⑤ 未利用地の健康・賑わい、研究機能への活用</p> <p>⑥ スポーツ観光への活用</p> <p>⑦ アクセシビリティの向上</p>	<p>① 水質、底質の改善による大阪湾の再生への貢献</p> <p>② 親水レクリエーション空間の形成</p> <p>③ 市民活動・交流空間の形成</p> <p>④ 景観の向上</p> <p>⑤ 未利用地の健康・賑わい、研究機能への活用</p> <p>⑥ スポーツ観光への活用</p> <p>⑦ アクセシビリティの向上</p>

※ 施策メニューは活性化方策を実現するにあたっての一例であり、今後具体的な検討を進め確定されるものである。